



新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 256

R5. 6月号

新たな本との出会いを図書館がサポート！ 「かぞくぶっくぱっく」リニューアルしました

「かぞくぶっくぱっく」は、様々なテーマで本を数冊詰め合わせた“本の福袋”です。目的に応じて本と出会えるよう年齢別に4つのコース（めばえ、ふたば、わかば、あおば）を用意。内容も多岐にわたるよう工夫を凝らし、大人から赤ちゃんまで、幅広い年代の方に楽しんでいただけるようになっています。

6月からはぶっくぱっくの中身がすべて入れ替わり、新しく入った本もたくさんご用意しています。

中身を確認できるぱっくもあるので、ぜひ手に取ってみて下さいね！

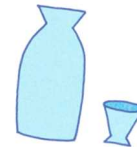


移転開館25周年特別展示「お酒を読む・飲む・楽しむ」

新屋図書館がこれまで収集・保管してきた、新屋の地場産業である醸造関係の資料を展示します。お酒の本を読みながら、ゆっくりお酒を飲んで楽しんでみては。

期 間：6月6日（火）～7月17日（月・祝）

場 所：エントランス前



6月のおはなし会

6月3日（土）14:00～14:30

みどい、ぐんぐん

～絵本・手遊び～

（おはなしのへや・幼児～小学生）

6月13日（火）10:30～10:50

ぽつぽつ あめふり

～紙芝居・ふれあい遊び～

（おはなしのへや・赤ちゃん～）



新刊案内

カラダのすべてを肛門は知っている

赤羽根 拓弥／監修

カンゼン 請求記号 491.34 (基礎医学)

「健康のバロメーターは肛門である」と言われるほど重要な役割を持つ臓器。その様々な機能やトラブルの防止策、うんちやおならの秘密など、不思議な世界が満載の1冊です。腸活ブームの今、本書を契機に肛門から健康を見直してみるのも良いかもしれません。



デグー、飼いはじめました！ デグーの飼い方まるわかり！

大野 瑞絵／著

誠文堂新光社 請求記号 645.8 (動物)

デグーは、げっ歯目に分類されるモルモットの仲間。一見、ネズミにも似ていますが、賢く、人にもよく慣れる動物です。近年になって飼われはじめたデグーについて、興味深い生態から飼い方の基本まで、可愛いイラストや写真を添えて、わかりやすく解説します。



牧野万葉植物図鑑

牧野 富太郎／原著

北隆館 請求記号 R470.38 (植物学)

植物学者の牧野博士が残した貴重な資料をもとに編集された図鑑です。正確で美しい植物図。資料から引用した考察。さらには植物を用いた万葉歌にまで言及され、その知識量に驚かされます。晩年になってもその研究熱は冷めることがなかった博士。植物愛を凝縮した1冊です。



「気になる」は君の個性だ！ 世界が→広がる学問図鑑

宮野 公樹／監修

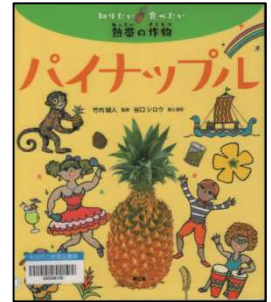
Gakken 請求記号 00 (学問) ※中学生から

世の中の様々な研究は、ちょっとした気づきや関心事から始まっているそうです。自分の好きなこと、気になることがどんな研究につながっているのか、チャート診断をしてみませんか？知らなかった学問の扉が開くかもしれません。



図書館員（飯野 敏）のおすすめ本

書名	パイナップル 知りたい食べたい熱帯の作物
著者名	竹内 誠人／監修、谷口 シロウ／絵と造形
出版社	農山漁村文化協会
所蔵	新屋、明德館 請求記号 62 (農業)



皆さんはパイナップルはお好きでしょうか？甘酸っぱくて生で食べてもよし、酢豚などの料理に入れてもおいしいですね。この本にはそのパイナップルを知るための要素が満載です！例えば世界には150品種ものパイナップルが存在すること。あるいは昔は「王さまの果物」と呼ばれ高級果物でしたが、現代では安価に入手できるようになったこと。中南米原産のパイナ

ップルが日本へと広まったのは、日清戦争後に植民地となった台湾から沖縄へ伝わったことなどなど。カットフルーツだけではなく肉をやわらかくさせるために酵素を利用したり、ジャムやドライフルーツとしても美味しいですね。私たちに大変身近で今まで何気なく食べていたパイナップルも、背景にはこんな深いところがあると気付かせてくれる1冊です。

図書館員（鎌田 友理）のおすすめ本

書名	ヒルは木から落ちてこない。 ぼくらのヤマビル研究記
著者名	樋口 大良+子どもヤマビル研究会／著
出版社	山と溪谷社
所蔵	新屋、明德館 請求記号 483.94 (ひる)



音もなく忍びよって人の血を吸い、見た目もちょっとグロテスクなヤマビルは、快適に山を歩きたい人間からすると迷惑な存在。ですが、なんとそんな嫌われものに興味を持ち、研究まで始めてしまった小中学生がいました。この本では、その研究の過程と成果が、生き生きとしたエピソードとともに紹介されています。

登場する“子ども研究員”たちは、ヤマビル

を観察し、生態についての知識を深めながら、「シカによって生息域を広げている」「木の上から降ってくる」といった一般に流布している俗説が事実であるかどうかについて、実験を行い地道に検証していきます。彼らが試行錯誤をくり返して自然の不思議に立ち向かう姿を追っていくと、「科学っておもしろい！」と本を読んでいるこちらまでワクワクしてきますよ！

記事になったお酒の話題あれこれ…新しいカフェ、オープン…

3月、秋田市から北へ約80キロ、JR東八森駅近くの国道101号線沿いに、日本酒の醸造所を併設したカフェ「LABO and CAFÉ YAMAMOTO」がオープンしました。手がけたのは、八峰町の酒蔵「山本酒造店」。社長である山本友文さんは、様々なイベントで出会った酒好きの人々の熱量に注目し、「日本酒ファンが満足する施設があれば、もっと人が呼べるはず」と、日本酒をより身近に感じられるカフェを構想しました。「LABO and CAFÉ YAMAMOTO」では、絞りたての日本酒の試飲や販売をはじめ、こだわりの豆を使用した珈琲や、フランスの有名菓子店と開発した酒かす入りのマカロンなど、メニューも豊富に取りそろえています。また、カフェに併設された醸造所はガラス張りになっており、店内から酒造りを眺めることもできます。日本酒好きにはたまらないカフェを、一度訪ねてみませんか。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】

毎日新聞

2023年4月23日

今、あなたへ…梅パワーで暑さを乗り切ろう…

今年も梅雨入りが近づいてきました。この時期の雨が多くなる現象をなぜ「梅雨」と書くのかには諸説ありますが、一説には梅の実が熟す時期に降る雨だからだとか…。そんな梅の実を食べると疲労回復や食欲促進といった効果があり、ジメジメとして蒸し暑くなりがちなこれからの季節にピッタリです。

『梅干し・ウメ酒・うめ料理Q&A』（藤巻 あつこ／著、主婦と生活社）や『梅ちから』（藤 清光、中山 美鈴／著、農山漁村文化協会）では、梅干しや梅かつお、梅酢みそなどを使った様々なレシピを収録しています。

『梅酒の基礎知識』（柘出版社）は日本全国の梅酒の紹介から、自家製梅酒の作り方と活用法、梅酒の味を引き立てるおつまみまでバラエティ豊かな情報が満載の一冊です。ベースとなる酒だけではなく、使用する梅の品種や産地によっても味わいが異なる奥深き梅酒の世界を楽しめます。



図書館員のひとりごと

「新屋図書館に勤務することになったよ。」

「へえ〜。」

知人と顔を合わせるたびに交わされる会話。聞く人みんなが意外そうな顔を隠しません。知人たちが自分に対して抱いていたイメージは、どんなものなのだろうか考える瞬間が度々。

これは図書館デビューでイメチェンのチャンスだと意を強くし、どんなオヤジになってやろうかと算段をめぐらせながら、図書館への桜並木道を出勤する毎日です。

(八木橋)

先月、運転免許を取得しました。運転できる日には祖父や父が助手席に乗り、運転や駐車の手方を教えてくれます。しかし、なかなか上手くできずに苦戦中…。特に駐車が苦手で、ハンドルを回すタイミングや止まる位置が掴めず何度もやり直し、やっとできる状態…。

運転は徐々に慣れてきましたが、時間が経つと感覚が鈍り最初の状態に戻ってしまうので、たくさん乗り慣れて一人で運転できるようになりたいです。

いつか友人と遠出するのが夢です！

(石井美)